

「地方創生」 スポーツの力で岐阜に活力を



FC岐阜
株式会社岐阜フットボールクラブ代表取締役社長
おんだ

恩田聖敬氏
さん

○プロフィール
岐阜県山形市(旧高富町)に生まれる 36歳
桜尾保育所、桜尾小学校
高富サッカー少年団に6年間所属
高富中学校
岐阜北高校
京都大学 工学部 物理工学科
京都大学 大学院 航空宇宙工学専攻
新卒依頼、複数のアミューズメント事業会社
にて現場、企画、経営管理に携わり今に至る。
2児の父 妻も大垣出身 生粋の岐阜人
＜過去の職歴＞
㈱ネクストジャパンホールディングス 取締役
㈱ネクストジャパン 取締役
㈱ブレイク 監査役
㈱ライブレント 取締役
アドアーズ㈱ 常務取締役
Jトラスト㈱ 経営戦略部長

新内閣が掲げる「地方創生」。そのなかで文部科学省が推進する「スポーツを通じた地方創生」は、誰もがスポーツを通じて、いつまでも健康で活力ある生活が営めるような街づくりや地域スポーツコミッションへの活動を支援し、活力のある地域社会を目指しています。人口急減や超高齢化社会を克服し、日本の活力を維持するためには、地方創生への取り組みを待たなして進めていかなくてはならない、今一。

今月号では、岐阜県唯一のプロチームとして「地域のシンボル」となり、また「スポーツを通じて岐阜県を元気に」、更には「J1」昇格へと、日々自ら東奔西走し続ける㈱岐阜フットボールクラブ代表取締役社長 恩田聖敬氏にお話を伺いました。



写真：© Kaz Photography/FC Gifu

いろいろなところへ出掛けてみえますね。お客様の反応はいかがですか？

恩田 皆さんに、温かく迎えていただいています。また激励の言葉もたくさんかけていただき、とても元気がでます。本当にありがたいです。



写真：© Kaz Photography/FC Gifu

今年はかなりお客さんが入っているようですね。

恩田 はい、お陰様でたくさんのお客様がスタジアムに足を運んで

今年4月、㈱岐阜フットボールクラブ代表取締役社長に就任した恩田聖敬氏。岐阜県山形市生まれ、36歳。高校までを岐阜で過ごし、京都大学・大学院を卒業。その後、複数のアミューズメント企業勤務を経てJトラスト㈱に入社。これらで培った経営手腕を発揮し、36歳の新社長は低迷が続いたFC岐阜を、今期上昇気流に乗せ続けています。

スタジアムをいっぱいにする、FC岐阜のことをもっと知ってもらうこと

今年4月24日、この2つの大きなスローガンを掲げ、代表取締役社長に就任した恩田社長。「多くの方にFC岐阜の存在に気付いてもらうこと」自らの主たるミッションは、チームの「広告塔」となることと捉え、時間が許す限りショッピングモールでのチーフスの配布や観戦の呼びかけ、また講演会やトークショーなどの活動を、率先して取り組んできました。

くださっています。

その要因は何ですか？

恩田 ひとつは、チームが魅力的な試合をしてきていることです。現在のFC岐阜の得点力はJ2で5位であり、点を取ることでお客様を魅了してくれています。また、試合以外にも各種イベントを織り交ぜ、総合的なボールパークを目指して来た手ごたえもすこしずつ感じています。

これから「地域とスポーツ」、ただ「試合に来てくれ、みてくれ」というだけではなく、我々を含めたクラブ全員で自分たちのできることを通じて、県内のより多くの皆様と触れ合うことが大切だと考え、続けていきます。

FC岐阜の組織について、まだよくご存じない方も多いかと思っています。詳しく教えて下さい。

恩田 FC岐阜のトップチームには、現在総勢35名の選手がおり、そのなかに岐阜県出身の選手が4名います。その下に社会人で構成されているFC岐阜セカンドというチームがあります。国体の強化チームとして設定されたチームで

◎インタビューー

早川美智子

岐阜県商工会議所女性会連合会会長
岐阜商工会議所女性会会長
岐阜商工会議所議員
ハヤックス(株)専務取締役





すが、一昨年の東京国体で優勝を果たしたほど力のあるチームです。こういった形で下から選手を育てていき、岐阜県出身者や、FC岐阜に小さいころからかわつてきた選手を醸成してトップチームに導いていく、ひいてはそのなかから日本代表が出ていくような夢を是非目指していきたいと思っています。その下には高校生選抜のU-18や中学生選抜のU-15、その下に小学生に対してのサッカースクールを5校開校し現在280名ほどのスクール生がおり、FC岐阜というチームが構成されています。また、後援会はそのクラブをまさに底から支えていただいている組織です。これまではFC岐

FC岐阜は岐阜県で唯一のプロチーム サッカーで子どもたちに「夢」 を与え続けます

「岐阜の子どもたちにとって『プロ』の選手の試合を間近でみることでできる環境があるということは、とても素晴らしいことです。」

恩田 地域密着ということばがよく聞かれる時代です。スポーツもしかりで、例えば海外のFCバルセロナでは、何と出生届を出す前にファンクラブに加入させるなんていうことが普通に起こっています。HPにも0歳〜1歳、2歳〜6歳、それ以上というファンクラブの年齢区分が存在します。ほんとうに「地元で生まれたら会員になる」ということが当たり前だという存在にFCバルセロナはなっています。じゃあ、なんでそんな状況になっているのでしょう。もちろん歴史が作っているものでもあります。実際私どものスタッフがヨーロッパで「なんでそんなに(地域のチームを)応援するのだ?」と聞くと「地元だから当たり前じゃないかい」と即、返答があったといいます。ほんとうに市民の多くが「バルセロナといえ

る」の社長が後援会の会長を兼務する、ある意味異常な状況でもありました。が、岐阜県をはじめ多くの行政・経済界の多くの皆様のご支援をいただき、新たな後援会の形が整いました。まさにALL岐阜県で支えていただいています。その結果、後援会の会員様は個人2014年度の目標値である、個人5000口、法人500口を突破しました。そのほかにも岐阜県と42市町村すべての自治体が株主になっていただいております。

これはJ1のクラブなどを含めてもなかなかない形です。ALL岐阜の支援体制の形について、大変ありがたいと思っています。また後援会とは別にファンクラブは3,000名強の会員がおり、運営ボランティアスタッフは100名強、スポンサー企業様は100社以上と、多くの皆様に支えられながら運営しています。ほんとうにありがとうございます。

サッカーというスポーツを通じて岐阜の子どもたちを 世界で活躍できる人材に育てます

「多くの皆さんに支えられた、しっかりと組織ですね。小さいお子さんの育成に、とても力をい

ば? 「サッカーチームだ」と思っているということがこれだけの機運があつて、市民が誇りを持って一緒に盛り上がる、などということとがヨーロッパの多くのチームで体现されています。

Jリーグにおいても現在、47都道府県のうち39都道府県に(J3も含めて)プロサッカーチームがあります。Jリーグでは何れ全ての都道府県にプロサッカーチームを結成してそれぞれのチームが都道府県を象徴するようなクラブになつて「スポーツを通じて県を盛り上げ、スポーツ振興で心身ともに健康な文化を作っていこう」という100年構想、理念を掲げてやっています。そのようなことにもこういったヨーロッパの事例を参考にしながら進めています。

それに対してFC岐阜は今、岐阜県全体を盛り上げられる、子どもたちをはじめ、岐阜県の多くの皆様が「誇り」に思えるようなチームになれるようにといった想いを掲げてやっています。

子どもたちが、夢中でボールを追いかける姿を見ると、私も胸が熱くなります。うまくいった、失敗した、競い合うなど、さまざまな経験を通して「夢中」になることが、いつか大人になった時の大

れているのはすごくいいことですね。

恩田 はい。FC岐阜のサッカースクールでは、サッカーの技術だけではなく、コミュニケーション能力や、子どもたちが自らチャレンジする気持ちを育てるなど、サッカーと言うスポーツを通じて岐阜の子供たちが岐阜から世界へ羽ばたいていけるよう、育成に力を入れています。

「スポーツは教育、人間形成にとでも役立ちます。そのなかでサッカーは、チーム全体で試合の戦略を共に助け合いながら組み立てていくスポーツですから、体力も精神力も養われます。これからますます推進してほしいです。」

恩田 はい、もちろんです。サッカーは、社会生活と同じくルールがある中で表現しなくてはなりません。「あたりまえのこと」があたりまえにできる」ということから、「仲間をつくること」「ルールを守ること」「仲間と協力すること」などを、小さいうちから「楽しみながら」学べるような環境を提供していく。これはFC岐阜の大きな役目だと思っています。

きな自信に繋がっていく。そんな「スポーツを通じた健やかな未来」のために取り組んでいきたいと思っています。子どもたちがサッカーを通じて岐阜を好きに、岐阜県を盛り上げたいと思う方々が多くなっていくことを実現していきたいです。

チーム全体が お客様を意識するようになりました

「社長就任から半年経ちました。早かったですか?」

恩田 ものすごく早かったです。あつという間に過ぎて行っていますが、充実している証拠なのかなと思います。

「就任当時と今とでは、何か気持ちに変化はありますか?」

恩田 就任当初は気負っている部分が今よりありました。現在は就任当初よりはクラブの中身も見え



写真: © Kaz Photography/FC Gifu



写真: © Kaz Photography/FC Gifu



てきて、現実的にやりたいこと、やらなければいけないことをひとつずつ進めている状況です。

「チームは、この半年で何か変わりましたか?」

恩田 お客様を意識するようになったと思います。業務の節々の中で、自分目線からお客様目線になった言動や取り組みが増えたと感じます。

「ラモス監督や川口選手などの

加入は、チームに、クラブに、そして地域全体にどんな影響があったのでしょうか。

恩田 よく耳にするのは「びっくりした！」と「有難い」というお言葉です。世界を舞台に戦ったプロフェッショナルが岐阜の地に足を運んでくれたことは、私もひとりの岐阜県民として「感謝の念」をもっています。このきっかけを無駄にすることなく、ぎふをひとつに盛り上げていくことが彼らの想



写真：© Kaz Photography/FC GIFU

いに応えることになると思います。
——この半年、いちばん印象に残っていることは？

「FC岐阜」は岐阜県を元気づけられる存在であり続けます

——「スポーツで岐阜を元気に！」
恩田社長の講演のテーマにもなっています。

これは今、まさに国が推進している「スポーツを通じた地方創生」、活力ある地域社会づくりですね。

恩田 はい。西濃運輸様や中京高校様など、今年は岐阜県の中で、スポーツの力を見せつけられる事が多数ありました。我々FC岐阜も岐阜県にとつての活力であり続けたいですし、試合会場を通じた交流や岐阜の発信に一役を担いたいと思っています。

——是非、お願いします。
では最後に、FC岐阜のこれらの姿を、社長としてどう考えますか？

恩田 歴代最高観客動員数を塗り替えた6月14日のジュビロ磐田戦です。15,000人集客すると宣言して、実際に15,138

8名の来場をいただきました。お客様で埋め尽くされたスタンドを見た時、岐阜県の底力に触れた 생각이して、感動しました。

恩田 FC岐阜が岐阜県を元気づけられる存在であり続ける事を願います。そのために、最大限の努力を今後も行っていきます。

キックオフの時点では神様しか結果はわからない、それがスポーツの醍醐味だと思っています。ですがスポーツは、試合結果だけではなく、他のスポーツとの交流やかかわったすべての方々の盛り上がり、場としても価値があるのではないかと思います。

FC岐阜の試合を通じて、岐阜県民が盛り上がり、さまざまにかかわった皆さんが輝く機会を提供することができ、またそれが新聞紙面などを通じて県内外に発信されていく、こういったことが「スポーツが持つ力」です。そのような正のスパイラルをこれからもどんどん磨いていきたいと

考えています。
今後も、FC岐阜は「面白くなつて多くの皆さんに「面白いじゃないか」と思っていただけの試合を必ず重ねていきます。どうぞスタジアムに足を運んでください。よろしく願いいたします。

～FC岐阜の挑戦！～

スポーツでぎふを元気に!

FC岐阜 恩田社長のコラムです

次号から
連載スタート!
お楽しみに!

